

2023 年 7 月 10 日

学校法人三幸学園  
福岡医療秘書福祉専門学校  
校長 岩本 克也 殿

学校関係者評価委員会  
委員長 大庭 欣二

### 学校関係者評価委員会実施報告

2022 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

#### 記

#### 1 学校関係者評価委員

- ① 大庭 欣二 （福岡福祉向上委員会 代表）
- ② 宮崎 由佳 （社会医療法人財団白十字会 白十字病院 医事課長）
- ③ 北村 岳人 （株式会社リクルート）
- ④ 本山 亜希 （医療法人徳州会 福岡徳州会病院／診療情報管理士科 卒業生）
- ⑤ 田中 香奈恵 （社会福祉法人誠和会 介護老人福祉施設けやき／介護福祉科 卒業生）

#### 2 学校関係者評価委員会の開催状況

2023 年 6 月 13 日（会場 福岡医療秘書福祉専門学校 302 教室）

#### 3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

# 2022 年度 学校法人 三幸学園 福岡医療秘書福祉専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 本多 未佐

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 大庭 欣二

## 1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療現場で医療事務・診療情報管理を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え動ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

## 2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

### ① 前年度重点施策振り返り

#### 学生募集

引き続きコロナ禍での学生募集であったため、従来の来校型に加え、オンライン型と動画型の 3 パターンのオープンキャンパスを展開した。

来校型では、本校の魅力の一つである「教員と学生の距離感の近さ」を意識して打ち出し、動員数は前年度より増となった。オンライン型においては、ZOOM を使った生配信型として土日とあわせて平日にも配信をした。

また遠方の学生への対応として ZOOM を使用した個別相談も実施した。動画型においては 24 時間いつでも進路活動ができるよう、Youtube 動画を作成し配信した。

学生スタッフによる活躍も目立つ内容となり、高校生の立場に寄り添った内容となったと感じる。

また SNS による発信は毎日実施し、内容も毎月検証するなど、より強化した。

入学に対する不安解消のために、入学予定者向けのオンラインホームルームを入学前に実施した。

該当者は少なかったが教材実習費の支払いが困難な学生に対しての支援・サポートは今後の課題となった。

中学生への職業体験の参画の機会に恵まれなかったため、次年度は積極的に参画していきたい。

#### 学生指導

医療校人材育成方針「相手のこうしてほしいを理解し考え動ける人材を育てる」に基づき学生指導に取り組んだ。その中で「教科指導（技術）」「生活指導（心）」を大きな 2 つの柱とした。

「教科指導（技術）」においては、検定合格率の向上に向けて、検定 week の作成を行った。

コロナ禍の影響で検定直前にオンラインとなる教科もあったが、高い合格率をキープすることはできた。また、実践力を養成する授業ではタブレットを使用し、学校専用アプリの SANKOGATE の活用したテストの実施、対面授業ではロールプレイやグループワークも取り入れた。

「生活指導（心）」においては、クラス内で一人一役を取り入れ、全員が何かしら活躍できる場を設けた。

また年々、学生の多様化もあり、スクールカウンセリングの活用も多くなったため、より一層一人一人に合わせた対応や早めに異変に気づき対応することを心掛ける教務となった。

行事に関してはコロナ禍でも創意工夫し「With コロナ」で実施することができた。

#### 就職先への連携

2022 年度就職基本方針を「キャリア支援の強化」「対外活動の強化」におき、学生へ指導してきた。しかし、コロナ禍の影響にて、どの分野においても求人数の推移が減少した。そのため、「キャリア支援の強化」として、学生への就職先希望調査、面談の実施、卒業生の在職する医療機関への電話がけ等、一つ一つ丁寧に行っていた。「対外活動の強化」としてボランティア活動やインターンシップが就職先、学生の両方にとってプラスになると考えるため、今後も引き続き繋がり強化を行っていく。ガイダンスや行事を通して卒業生講話を実施。課題でもあった就職後の安定を目指し、就職前のインターンシップを取り入れたことで学生と就職先のミスマッチを防げた。また卒業生の就職定着を調査したことで、卒業生の状況把握だけでなく、求人開拓にもつながった。

#### ② 学校関係者評価委員会コメント

・特になし。

### 3.評価項目の達成及び取組状況

#### (1)教育理念・目標

| 【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）         | 評価 |
|----------------------------------------------|----|
| 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）   | 4  |
| 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか                 | 3  |
| 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか    | 3  |
| 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか | 4  |

#### ① 課題

- ・各業界に沿った「相手」のこうして欲しいを理解できる人材を育成するとともに、医療や福祉に携わる者として相手を尊重し、寄り添うことができる人材を育成する。
- ・社会および業界のニーズの把握を強化し、教育内容に反映していく。
- ・教育方針/クラススタンダード(クラス目標)の継続した指導。

#### ② 今後の改善方策

- ・福岡市福祉人材協働ワーキング、福岡市オレンジパートナーズ等、業界内外の方々との情報交換の場には積極的に参加し、社会や業界が求めている人材について、主体的にかつタイムリーに情報を収集していく。
- ・医療事務育成にあたり、福岡県医師会にご協力をいただき、医師が求める事務職の資質について理解、および、指導を深める。
- ・卒業生が働く施設や実習施設への訪問を強化し、日ごろの教育の課題等を把握し、学生の将来像をイメージしながら実際の指導に結び付ける。

### ③ 特記事項

- ・人材育成像を全教室に掲示し見える化した
  - ・スタートアッププログラム(新入生研修)や学校生活でのクラス目標設定とあわせて、クラスの中での自分の役割を考える機会とするために、1人1役の委員を設定した
  - ・新入生の保護者向けにオンライン保護者説明会を実施し、学校の教育理念・人材育成像・学科ごとのスケジュールを知ってもらう機会を作った
- (診療情報管理士科)
- ・新入生保護者説明会内で認定試験の内容と合格に向けた3年間のカリキュラムについても説明した。
  - ・授業内容として病院受付をイメージしたシミュレーション型授業を取り入れた。

#### (介護福祉科)

- ・新入生保護者説明会において、学園の教育理念とともに介護福祉士に求められる人物像の説明を行った。学生だけでなく保護者にも説明することで、より教育目標が浸透し、2年間のカリキュラムが何を目指して体系化されているのか、ご理解いただいた。その結果、国家試験前には、合格に向けて、保護者と連携してサポートしていくことができた。
- ・福岡市のオレンジパートナーズに参加し、さまざまな団体や企業とともに、地域での認知症の方の暮らしをささえるミーティングに継続的に出席した。今年度はその中から、学生が主体的に活動できる機会を創出していく。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

#### ・本山委員(診療情報管理士科について)

将来を考えるにあたって幅が広がったからこそ、学生時代にどんな仕事が自分に合うかが想像できなかったので、1年生が病院実習に来たのはとても良いと感じる。

#### ・田中委員(介護福祉科について)

自分で考えられる力を養う方針はとても良いと考える。課題を与えられて自分でどうしたらよいかを考える可否かで成長度合いが変わる。成長する人はチャレンジ精神がある。

#### ・大庭委員(介護福祉科について)

経営陣がいかに理念を周知するかによって、法人の職員の働くことへの誇りに繋がっていると考える。何を軸として経営しているのかを経営陣が受け継いでいくことが望ましい姿だと考える。教室に人材像を掲げるということは良い取り組みだと感じる。

また、学校教員が学校の中だけに留まらず、色んな活動に参画されているのは良い。介護業界や福祉業界は閉ざされた業界で、かつ理解されにくい業界と思われがちである。業界内の人たちが外部に向けて発信や活動ができていないという現状があると感じる。学生にも介護の専門職というよりも社会の一員であるということを意識させることが大切だと考える。

## (2)学校運営

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）     | 評価 |
|------------------------------------------|----|
| 目的等に沿った運営方針が策定されているか                     | 4  |
| 事業計画に沿った運営方針が策定されているか                    | 4  |
| 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか | 4  |
| 人事、給与に関する制度は整備されているか                     | 4  |
| 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか           | 4  |
| 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか          | 3  |
| 教育活動に関する情報公開が適切になされているか                  | 4  |
| 情報システム化等による業務の効率化が図られているか                | 4  |

### ① 課題

- ・社会貢献、SDGsへの学生主体の取り組み
- ・経理処理に関する電子化
- ・省エネに関する取り組み

### ② 今後の改善方策

- ・コンプライアンス研修やハラスメント研修、Z世代に関する研修を行い、職員の意識を高める。
- ・在宅勤務とフレックス勤務の柔軟な対応
- ・自治体との連携、地域から必要とされる学校運営

### ③ 特記事項

- ・就業規則、職員行動指針を設定し、年度ごとに改定している。内容については職員会議で共有している。
- ・在宅ワーク、フレックスを利用した出勤体制を積極的に取り入れた。
- ・インフォクリッパーによる学生情報のシステム化を行い、教務に関わる教務事務についても研修を行った。
- ・継続的に、ノー残業デーを、年度初めに設定することで、ワークライフバランスや業務効率化の意識を高める
- ・プリント配布していた資料を学校アプリでの発信することでペーパーレス化に取り組んだ
- ・経理における、電子帳簿法に対応する管理、および、現金取り扱いなしのための PayPay 導入
- ・教員全体の働きやすい職場づくりを目的に、メンバーの主体的な参加できる会議運営に方法を変え、かつ年次に関わらず意見交換ができるグループワークを取り入れた。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

#### ・宮崎委員（診療情報管理士科について）

SDGsや社会貢献を学生主体は、こういった方法で学生の意見を集約しているのか。病院ではエレベーターの節電を行っている。6機あるが夜間は患者さんを運ぶ主要なところしかつけていないという取り組みを行っている。

・村上副校長

一人一役は決めているが、提案書を書かせる等の一步はスタート段階といったところになっている。

・田中委員(介護福祉科について)

施設の電球は暖色の電球だったため、切れるたびに LED 電球に交換している。節電とともに、生活の場なので暗いという印象を与えないように意識している。

・江頭教員

実習着等もユニセックスにしているが、いろいろな面で学生の声を拾っていけるような取り組みを行っていききたい。

(3)教育活動

| 【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)                                      | 評価 |
|---------------------------------------------------------------------------|----|
| 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか                                           | 4  |
| 目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか | 4  |
| 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか                                                   | 4  |
| キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか                        | 4  |
| 関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか                         | 4  |
| 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか                   | 4  |
| 授業評価の実施・評価体制はあるか                                                          | 4  |
| 職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか                                                 | 4  |
| 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか                                                    | 4  |
| 資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか                                      | 4  |
| 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか                                 | 3  |
| 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか                | 4  |
| 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか                 | 3  |
| 職員の能力開発のための研修等が行われているか                                                    | 3  |

① 課題

- ・ICT 教育において、授業の実施は以前に比べると定着しているが、より授業の質を向上する。
- ・学生への実践的な職業教育を行うためにより一層産学連携を強化する。
- ・学び方の違いについていくことが困難な学生へのサポート

## ② 今後の改善方策

- ・現場と連携し卒業生を講師として採用し、現場の状況、学生時代の話をしてもらうなど学生のキャリアイメージやモチベーション向上につなげる
- ・現場及び関係各所へのボランティアやインターンシップの機会を積極的に行う。
- ・オンラインで行われている教員向けの研修などには積極的に参加し、教授手法の技術を幅広く習得する。同時にオンライン授業見学ができる環境を整える。
- ・カリキュラムの一環で現場の方と連携し、行事だけでなく、授業や就職面接指導にご協力いただく。
- ・関連団体との連携を強化し、オンラインを利用し講話を実施する
- ・教員の指導力アップ研修、Z世代に関する研修

## ③ 特記事項

### （診療情報管理士科）

- ・医療現場と連携し、医師や診療情報管理士の講師派遣の企業契約を結んだ。

### （介護福祉科）

- ・姉妹校と連携し、美容師（専門職）から洗髪を指導していただいた。専門的な視点からの講義内容に学生はとても充実した学びを得ることができた。
- ・介護のIT化に合わせ、企業様と連携し、在学中にスマート介護士 Beginner の資格取得ができるようになり、実際の施設への見学を通して、さらに学びを深めることができた。
- ・看取りや多職種連携など、現場の職員からの講義を数多く取り入れた。
- ・認知症の当事者の方との交流会を開催し、多くの気づきを学ぶ機会となった。
- ・実際の施設の困りごとの事例を提供いただき、学生がケアを考えプレゼンする機会を設けた。

## ③ 学校関係者評価委員会コメント

### ・田中委員（介護福祉科について）

介護福祉科の学生は書くことやパソコンが苦手な学生が多いイメージがあるが、実習日誌がIT化やICT化になっていくので、どうしたらいいのかなと感じる。字のスキルも学生様々だとは思いますが、現場に出たときにパソコンに慣れている・慣れていないで差が生まれてしまうこともあるので、施設として、このまま紙に記入する実習日誌は気になる部分ではある。すでに実習日誌を電子化している学校があるかどうかは不明であるが、理学療法士は日誌をパソコンで行っている姿を見る。介護の現場も電子化していかなければならない時代だと感じている。外国人留学生はパソコンの方が日誌を書きやすそうである。

### ・宮崎委員（診療情報管理士科について）

現場で働いている方と触れ合うことが目的ならば、実習期間を長く取る必要はないと感じる。単発で一人ずつ入ってくる形でも良いと思う。一人の学生がじっくり現場を経験するには実習期間が長期間でも問題ないと思うが、働くというイメージが出来なければ自分がどのような道に進みたいかを考えるためには、色んな場面を見た方が良いと考える。

・北村委員(診療情報管理士科・介護福祉科について)

学ぶツールとして、コロナ禍をきっかけに高校でも ICT 化が進んでいる。クラスルームを導入している高校は多い。タブレット端末については、高校で購入したものを貸し出ししている高校もあれば、県単位で支給されている高校もあるし、ご家庭で負担していただいている高校もある。

また、学び方としては、いかにして主体性を育成するかに注力している。高校では探求型の授業を展開し、地域を活性化するためにどのような活動ができるかを考えるような授業を行っている。このような授業を行ってきた高校生が専門学校に入学した際には、この学校が目指しているものと非常にマッチしているのではないかと感じる。

#### (4)学修成果

| 【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)  | 評価 |
|---------------------------------------|----|
| 就職率の向上が図られているか                        | 4  |
| 資格(免許)取得率の向上が図られているか                  | 4  |
| 退学率の低減が図られているか                        | 3  |
| 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか            | 3  |
| 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか | 4  |

##### ①課題

- ・退学率低減に向けた取り組み
- ・合格向上に向けた勉強方法の指導(勉強の習慣がない学生へのアプローチ)

##### ② 今後の改善方策

- ・退学率低減のために入学時から保護者との連携を強め教員間でも情報共有と連携したサポートを行っていく。
- ・継続して各種教育アンケート(授業・実習・卒業生)を実施し、課題発見と具体的な施策検討を進める。
- ・求人や実習先の新規開拓と共に就職先が求める人材像の把握のため教職員の積極的な医療機関、施設、園への訪問、ヒアリングを実施。
- ・卒業生の同窓会サイトの活用。

##### ③ 特記事項

- ・学科毎のチーム制とし、学科会議の時間を設け、学科内の学生共有を行った。
- ・学科間の連携を強め、学科ごとのニーズや課題に応えるために学科会議を定期的に実施した。
- ・学生の学校生活満足度や集団について問う「ハイパーQU」の実施を行い、タイムリーな学生指導を行った。
- ・具体的な結果は以下の通りである。

2022 年度進路決定率:診療情報管理士科業界内就職率 100%

介護福祉科業界内就職率 100%

2022 年度退学率:5.2%(学校全体数)

2022 年度資格取得率:診療情報管理士科 診療情報管理士認定試験合格率 91.7%

介護福祉科 介護福祉士国家資格合格率 100%

- ・卒業生による職業ガイダンスを在学生に向けて実施し、業界の魅力を直接伝えてもらう機会を作った。



・従来の就職活動のスケジュールを見直したキャリア支援を行った。

(診療情報管理士科)

・過去 13 年の卒業生の就職状況を確認し、現在も診療情報管理士で活躍している卒業生の把握を行い、病院訪問、実習依頼につなげた。また求職していた卒業生のサポートにもつながった。

(介護福祉科)

・国家試験対策については、早期より学力レベルに合わせた個人指導に切り替えるとともに、1 人 1 人の勉強方法や学習習慣に合わせたサポートを行った。教員間で学生の情報を常に共有し、アプローチを変化させていったことが良かった。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・北村委員(診療情報管理士科・介護福祉科について)

学ぶ意識の差は昔から変化があまりないように感じる。どう学ばせるかのやり方の問題だと感じる。板書型ではなく対話型に変えていくことが良いと考える。学ぶ意欲を引き出すやり方は、汎用化と個別化をうまく使い分けること。目標喪失での退学者については、元々目標があったのかが疑問に上がる。学校教育のやり方ではなく、入学選抜時のやり方の問題になってくるのではないかと考える。退学率を下げるためには、志願者を増やし、元々意欲があるのかどうか判別することが大事なのではないかと考える。

(5)学生支援

| 【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)    | 評価 |
|-----------------------------------------|----|
| 進路・就職に関する支援体制は整備されているか                  | 4  |
| 学生相談に関する体制は整備されているか                     | 4  |
| 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか               | 4  |
| 学生の健康管理を担う組織体制はあるか                      | 4  |
| 課外活動に対する支援体制は整備されているか                   | 4  |
| 学生の生活環境への支援は行われているか                     | 4  |
| 保護者と適切に連携しているか                          | 4  |
| 卒業生への支援体制はあるか                           | 3  |
| 中途退学者への支援体制はあるか                         | 3  |
| 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか               | 3  |
| 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか | 3  |

① 課題

・卒業生や中途退学者への支援体制づくりについて、社会のニーズに合ったものを行っていく必要がある。

②今後の改善方策

・卒業生の同窓会 LINE の活用

・引き続き、新卒 1 年目の悩みを聞く機会を作り、母校に行きたいと思える支援づくり

### ③特記事項

- ・新卒 1 年目の悩みを話せる機会となるよう、2021 年度卒業生の同窓会を校内で実施した
- ・保護者の学校理解がさらに進むよう、新入生への保護者説明会を学科ごとにオンラインで実施した。

#### （診療情報管理士科）

- ・診療情報管理士科研究発表会はオンラインで実施したことにより、鹿児島県や長崎県など遠方の医療機関の方にも参加していただいた。
- ・診療情報管理士科研究発表会内での卒業生講話の実施。

#### （介護福祉科）

- ・卒業生を対象に認知症の勉強会を開催し、日ごろの悩みを共有できる機会を設けた。
- ・中途退学者へのサポートとして、教育クリエイトの介護関係の研修の紹介や実習施設への就職紹介などを行った。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

#### ・田中委員（介護福祉科について）

卒業生で同じ職場で働いている人はいるが、ジェネレーションギャップを感じる。現場にすぐ染まる、楽な方に染まるスタッフが多い実感がある。新卒 1 年目に学校に行って話をして悩みを共有しているという取り組みはすごく良いことだと感じる。上司の立場からは悩みがあるかどうか聞けないので、卒業後の年数は関係なく集まれる場があるのは良いことだと感じている。待遇は身に着けておかないといけない研修なので、学生にはしっかり教えてほしいと感じる。声のトーン・表情一つ取っても、印象が変わるので、学校で学んでいただきたいと感じる。

#### ・大庭委員（介護福祉科について）

社会福祉士や精神保健福祉士は資格を生かせる仕事に就いている割合が 7 割ぐらいあるが、介護福祉士は 5 割前後ぐらいとなっている。原因は不明だが、資格を持っていることについての誇りや、労働環境や給与を高めていかないといけないと感じる。介護福祉士の資格を取得することをゴールにするのではなく、その先を見据えられるような仕組みづくりがあると良いと感じる。

#### ・本山委員（診療情報管理士科について）

最近の採用は実習生を採用する形を取っている。実習のお願いに来る先生が毎年同じ先生が来るが、その先生からおすすめされる実習生を採用している。同じ病院に同じ担当の先生が信頼関係を築きやすく、卒業生ともコミュニケーションを取りやすくなるので非常に良いと感じる。知識の面では分からないものと接してもらえるが、電話対応は注意されることが多く悩むことが多かった。

## (6)教育環境

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）       | 評価 |
|--------------------------------------------|----|
| 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか           | 4  |
| 学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか | 4  |
| 防災・安全管理に対する体制は整備されているか                     | 4  |

### ① 課題

- ・学生 1 人につき PC1 台もしくはタブレットの保有
- ・新規実習先の開拓及び、実習内容のすり合わせ。
- ・安全点検防災訓練の実施

### ② 今後の改善方策

- ・入学前の電子教材の説明、タブレット購入の案内(全学科で 1 教科はデジタル教材を導入)
- ・新規の実習先の実習内容を確認し、事前の現場との打ち合わせや学生へのアフターフォローも徹底する。

### ③ 特記事項

- ・校内の Wi-Fi を全教室に設置し、全館で学生も教員も使用できている。
- ・新しい専門図書や教材DVDを購入し、図書の充実を図った。
- ・SANKO GATE(学生・教員向け連絡用アプリ)を取り入れ、緊急の連絡網や変更点をタイムリーに伝達している。
- ・全教室に避難経路マップを掲示し、年度初めに避難経路、避難場所の確認を行っている。  
(診療情報管理士科)。
- ・多目的実習にてシミュレーションの授業を行うことができ、より実践に近い授業内容となった。  
(介護福祉科)
- ・学生のテキストについて電子書籍を導入した。
- ・介護実習室には最新の介護ロボット機器を導入し、眠りスキャンなどを整備し、授業や学生募集に活用した。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・特になし。

## (7)学生の受入れ募集

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|--------------------------------------|----|
| 学生募集活動は、適正に行われているか                   | 4  |
| 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか          | 4  |
| 入学選考は、適性に行われているか                     | 4  |
| 学納金は妥当なものとなっているか                     | 4  |

### ① 課題

- ・教務(教育成果)と広報(募集活動)の連動を常に意識し、高校生・社会人・留学生等の多様な学びのニーズに応え、学校経営の基盤となる学生募集に尽力していく。留学生の受け入れも引き続き積極的に行い、介護人材不足に対応できる学校となる。

・学生募集活動の早期化。高校生だけでなく中学生対策も必要。中学生に職業内容や魅力を理解してもらう。

## ② 今後の改善方策

- ・高校1、2年生への募集対策。
- ・中学生対象の職業体験を積極的に参画し、キャリア教育にも関わる。
- ・学校生活の様子が伝わるSNSの発信。

## ③ 特記事項

- ・地域で設定されている広報室と連携しながら、対外折衝・高校への説明会・オープンキャンパス等の機会を通じて魅力を正確に伝えられるように計画的に活動を展開している。
- ・高校生の保護者向けに学費説明会の実施。

## ④ 学校関係者評価委員会コメント

### ・田中委員（介護福祉科について）

留学生はどちらの国出身なのか。日本語の言葉の支援も授業内で行われているのか。これからの介護職の人材不足の解消のために検討していたため参考にさせていただきたい。

### ・西川教務主任

1年生に台湾と韓国出身学生が在籍している。3年前はフィリピン、ネパール、中国出身の学生が在籍していた。N2を持っていることが入学条件のため、1年生はルビを少し振ることで問題がない。フィリピンの方は日本語能力が低かったため、年間通じて補講という形で日本語サポート教員をつけていた。

### ・大庭委員（介護福祉科について）

継続していくことが非常に大切で、毎日続けていることは非常に素晴らしいことだと感じる。ターゲットに応じたツールの選び方についても業界の方も学ぶことが必要だと感じている。

### ・北村委員（診療情報管理士科・介護福祉科について）

TikTokのフォロワーが多い学生がいる可能性はある。その学生に三幸学園をアピールしてもらうのが良いと感じる。オープンキャンパスに来校する学生が減っている中で、来校前に接点を持てるかどうかは重要になってくる。総合選抜によって学生を確保する大学が減ってきている。AO入試が高校の先生から不評である理由として、高校生が学ばなくなるからである。入学前教育を徹底しているかどうかが大変である。高校生が合格した後のフォローを高校の先生方に何をしているのか、どれだけの強度で行わせるのかを提示できるかどうかで高校側の評価が変わる。

## (8)財務

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|--------------------------------------|----|
| 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか             | 4  |
| 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか             | 4  |

|                       |   |
|-----------------------|---|
| 財務について会計監査が適正に行われているか | 4 |
| 財務情報公開の体制整備はできているか    | 4 |

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第2次中期計画(2018 年度～2022 年度)の達成状況等の公開と同時に、第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)を公開する予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし。

(9)法令等の遵守

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|--------------------------------------|----|
| 関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか      | 4  |
| 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか           | 4  |
| 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか                | 4  |
| 自己評価結果を公開しているか                       | 4  |

① 課題

・自己点検/評価は学校関係者評価委員会を通じて、問題点の明確な洗い出しと具体的な改善策を検討する。

② 今後の改善方策

- ・法令/コンプライアンスの遵守と個人情報の保護・管理の徹底に努める。
- ・個人情報取り扱いの為に同意書の記入と個人情報管理の徹底の周知を職員会議等で行い、教職員の意識向上に努める。

③ 特記事項

- ・実施結果は学校ホームページ等を通じ評価の公開を実施していく。
- ・2022 年度総務監査の実施有。適切に管理しているとの報告

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・特になし。

(10)社会貢献・地域貢献

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）        | 評価 |
|---------------------------------------------|----|
| 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか             | 4  |
| 生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか                      | 3  |
| 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか | 4  |

① 課題

- ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献の提案、企画。
- ・地域や一般の方々に向けた公開講座やイベントを提案し、学生の学びと連動する機会をさらに設けていく。

② 今後の改善方策

- ・コロナ禍にありながらも、市町村および関連企業様との連携やボランティア活動の情報収集を強化しながら地域の活性化と貢献度向上に繋がる教育活動をさらに広げていく。
- ・引き続き地区行事への参加、地域への教室の貸し出しに協力する。

③ 特記事項

- ・博多区まちづくり推進委員会主催のクリーンデイへの参画
- ・博多どんたく港まつりのイベントブースの参画
- ・2023 年度世界水泳ボランティアスタッフとして参画予定
- ・施設基準管理士受験会場として教室の貸し出しの実施
- ・福岡市と連携し、認知症の方の「歌劇ザレビュー」観劇のサポートボランティアを実施予定

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・宮崎委員（診療情報管理士科について）

ボランティア活動はコロナ禍で全体的にストップしていて、5 類に下がった現在でもストップがかかったままの状態であり、解除の目途も立っていない状況にある。社会貢献活動は寄付活動を行っている。

・田中委員（介護福祉科について）

社会貢献についてはコロナ禍でボランティア活動に踏み切れない状況にある。外部の方と接触することにまだ不安があるため踏み切れない状況にある。

・大庭委員（介護福祉科について）

ボランティアは大切な学びだと感じる。しかし、学生や教員に義務化するのは大間違いである。ボランティアする意義やその先にあるものをしっかり学んだうえで、学生に参画してもらいたい。目的を持って参加しているかどうかで、学びの深さが全く異なる。自分の時間を犠牲にして参加するのではなく、ボランティアに参加することで得られるもの、感じれるものを伝えていただきたい。地域向けの福祉の相談窓口のようなことをしてもらえるとありがたいと感じる。

#### 4.学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・本多副校長

社会と繋がっていきながら学生の主体性を育成するために、学生に考えさせて企画させてプレゼンさせたいと考える。学生たちが考えてお願いができるような学校づくりを目指していく。卒業生の皆さんに現場で支援していただき、好循環を生んでいきたいと感じた。入学前の課題について説明する場が不足していたため、高校の先生に説明する場を検討していきたい。同分野の他校様とも連携し、一緒に介護業界を盛り上げていきたいと感じた。

以上